

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年9月23日(月)

活動隊員：酒井彰久、朝田和枝、作川真悟、花房八智代、酒井明子

1. 活動期間

2024年9月25日(水) 8時30分～17時00分

2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

3. 石川県珠洲市の被害状況

1) 地震によるもの(9月24日14:00 現在 石川県庁情報第161報)

人的被害 死者：126人 うち災害関連死：29人 負傷者：重傷47人、軽傷202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部破損：5,543棟、非住家被害：5,899棟

2) 水害によるもの(9月25日16:00 石川県 第7回災害対策本部会議)

人的被害 死者：2人 行方不明1人 負傷者：重傷 調査中、軽傷9人

住家被害 調査中

4. 支援活動の実際

1) 保健医療福祉調整本部にてミーティング

土砂の捨て場や土嚢袋に配布について、水道局の支援開始日等について報告があった。25日現在、孤立集落は、11か所55名であり啓開作業を進めている。まだ被害の全容がつかめておらず、避難所に専任職員が本日より入る予定。9月25日の支援として、日本災害看護学会、ピースボード、愛知人で大谷小中学校の支援、日赤救護班、福祉課、PWJにて避難所巡回、ささえ愛センター在宅支援を行う。

2) 大谷小中学校

10時00分～12時00分	<p>I 環境整備・健康管理</p> <p>昨日に引き続き、避難所の環境整備を行った。体育館、廊下、玄関の清掃を行っていたが、泥や砂で汚れている状況であった。廊下や入口の拭き掃除を行うとともに、入口にてスリッパに履き替えて入るように看板を設置し、土足で室内に入らないように注意喚起を行った。</p> <p>玄関から外は、高圧洗浄機とブラシにて清掃を行った。a.避難所内、b.体育館の生活スペースでスリッパを変えるようにし、生活スペースに極力砂が入らないように整備した。スリッパは汚れが目立っていたため、また生活スペースで利用するものと区別するために、色違いのものを新調した。</p>
13時00分～16時00分	<p>I 環境整備・物資搬送</p> <p>掃除班と物資班に分かれて作業を行った。掃除班は、体育館の前半分(ステージ側)のブルーシートを移動し、掃除機とフロア用ウエットシートを</p>

	<p>用いて拭き掃除を行った。</p> <p>物資班は、100 ケース以上届いた飲料水の物資搬送と整理を行った。飲料水の置き場所が、子どもたちの卓球スペースとなるため、スペース確保のために荷物の積みなおしを行った。</p>
16 時 00 分 ~ 16 時 30 分	<p>I 物資庫整理</p> <p>夕方から多数の支援物資が届き、物資庫が満杯になってきたため、珠洲市職員と協力し、整理を行った。衣類やタオルの支援が多く、種類や古着、新品などに分け、内容を明示した。</p>

5 . 支援のまとめ

水害発生から 5 日目となり、避難者の疲労が徐々にでてきている。支援物資が入ってきている状況であったが、段ボールに入った飲料水が徐々に積みあがっていくにつれて、1 月の地震の時を思い出し、「いつになったら終わるのか」という思いを吐露する方もいた。地震と水害を経験し、残るは天からの災害だと笑いながら話している方もいたが、ふと話し終えた後に悲しそうな表情が垣間見えた。応急仮設住宅の設置完了が 9 月末と予定されていたものが延期となり、何度目か分からない先の見えない不安にさらされており、今後の避難住民の心身の影響が懸念される。

6 . 活動写真



高圧洗浄機による玄関外の清掃



下足箱前の拭き掃除